

業の遺跡者の徳を見過したまふなり、神の憐憫を憐れみ故に、その震怒を永く保ち置きたまへず、ふたたび願ひて我らを憐れみ我らの徳を踏つけ我らの諸の罪を海の底に投まつめたまへん、汝古昔の日おきらの先祖に誓ひたう、その眞實をヤコブ賜ひ憐憫をアブラハムに賜はらん

五 六節〇五五至五七〇  
六 節〇五五  
七 節〇五五  
八 節〇五五  
九 節〇五五  
一〇 節〇五五  
一一 節〇五五  
一二 節〇五五  
一三 節〇五五  
一四 節〇五五  
一五 節〇五五  
一六 節〇五五  
一七 節〇五五  
一八 節〇五五  
一九 節〇五五  
二〇 節〇五五

一 二 三 四 五 六 七 八 九 一〇 一一 一二 一三 一四 一五 一六 一七 一八 一九 二〇 二一 二二 二三 二四 二五 二六 二七 二八 二九 三〇 三一 三二 三三 三四 三五 三六 三七 三八 三九 四〇 四一 四二 四三 四四 四五 四六 四七 四八 四九 五〇 五一 五二 五三 五四 五五 五六 五七 五八 五九 六〇 六一 六二 六三 六四 六五 六六 六七 六八 六九 七〇 七一 七二 七三 七四 七五 七六 七七 七八 七九 八〇 八一 八二 八三 八四 八五 八六 八七 八八 八九 九〇 九一 九二 九三 九四 九五 九六 九七 九八 九九 一〇〇

拿翁書

一 二 三 四 五 六 七 八 九 一〇 一一 一二 一三 一四 一五 一六 一七 一八 一九 二〇 二一 二二 二三 二四 二五 二六 二七 二八 二九 三〇 三一 三二 三三 三四 三五 三六 三七 三八 三九 四〇 四一 四二 四三 四四 四五 四六 四七 四八 四九 五〇 五一 五二 五三 五四 五五 五六 五七 五八 五九 六〇 六一 六二 六三 六四 六五 六六 六七 六八 六九 七〇 七一 七二 七三 七四 七五 七六 七七 七八 七九 八〇 八一 八二 八三 八四 八五 八六 八七 八八 八九 九〇 九一 九二 九三 九四 九五 九六 九七 九八 九九 一〇〇

一 二 三 四 五 六 七 八 九 一〇 一一 一二 一三 一四 一五 一六 一七 一八 一九 二〇 二一 二二 二三 二四 二五 二六 二七 二八 二九 三〇 三一 三二 三三 三四 三五 三六 三七 三八 三九 四〇 四一 四二 四三 四四 四五 四六 四七 四八 四九 五〇 五一 五二 五三 五四 五五 五六 五七 五八 五九 六〇 六一 六二 六三 六四 六五 六六 六七 六八 六九 七〇 七一 七二 七三 七四 七五 七六 七七 七八 七九 八〇 八一 八二 八三 八四 八五 八六 八七 八八 八九 九〇 九一 九二 九三 九四 九五 九六 九七 九八 九九 一〇〇

一 二 三 四 五 六 七 八 九 一〇 一一 一二 一三 一四 一五 一六 一七 一八 一九 二〇 二一 二二 二三 二四 二五 二六 二七 二八 二九 三〇 三一 三二 三三 三四 三五 三六 三七 三八 三九 四〇 四一 四二 四三 四四 四五 四六 四七 四八 四九 五〇 五一 五二 五三 五四 五五 五六 五七 五八 五九 六〇 六一 六二 六三 六四 六五 六六 六七 六八 六九 七〇 七一 七二 七三 七四 七五 七六 七七 七八 七九 八〇 八一 八二 八三 八四 八五 八六 八七 八八 八九 九〇 九一 九二 九三 九四 九五 九六 九七 九八 九九 一〇〇

一 二 三 四 五 六 七 八 九 一〇 一一 一二 一三 一四 一五 一六 一七 一八 一九 二〇 二一 二二 二三 二四 二五 二六 二七 二八 二九 三〇 三一 三二 三三 三四 三五 三六 三七 三八 三九 四〇 四一 四二 四三 四四 四五 四六 四七 四八 四九 五〇 五一 五二 五三 五四 五五 五六 五七 五八 五九 六〇 六一 六二 六三 六四 六五 六六 六七 六八 六九 七〇 七一 七二 七三 七四 七五 七六 七七 七八 七九 八〇 八一 八二 八三 八四 八五 八六 八七 八八 八九 九〇 九一 九二 九三 九四 九五 九六 九七 九八 九九 一〇〇



拿翁書終

ハ 卷九  
 一節九  
 二節九  
 三節九  
 四節九  
 五節九  
 六節九  
 七節九  
 八節九  
 九節九  
 十節九  
 十一節九  
 十二節九  
 十三節九  
 十四節九  
 十五節九  
 十六節九  
 十七節九  
 十八節九  
 十九節九  
 二十節九  
 二十一節九  
 二十二節九  
 二十三節九  
 二十四節九  
 二十五節九  
 二十六節九  
 二十七節九  
 二十八節九  
 二十九節九  
 三十節九  
 三十一節九  
 三十二節九  
 三十三節九  
 三十四節九  
 三十五節九  
 三十六節九  
 三十七節九  
 三十八節九  
 三十九節九  
 四十節九  
 四十一節九  
 四十二節九  
 四十三節九  
 四十四節九  
 四十五節九  
 四十六節九  
 四十七節九  
 四十八節九  
 四十九節九  
 五十節九

哈巴谷書

預言者ハバク

預言者ハバクハ預言の重負

ハバクよ我呼ぶるに汝の我に聽たせざるごとく何

時ぞ分や我なんぢにむかひて強暴を訴たふさども汝ハ助けたまさざるあり

汝何ぞに我に善惡を見せ

たまふや何ぞと艱難を瞻望居たまふや奪掠および強暴が前行はる

且爭論あり闘諍ある是によ

りて律法弛み公義正しく行はれず

惡き者義き者を圍むが故も公義曲りて行なはる

汝ら國々の民の中

を望み觀望しけり駭ろけ、汝らの目も我一の事を爲ん

之を告る者あるも汝ら信せざらん

視よ我カ

ヱア人を興さんどす

是すなばら猛くまた荒き國人にして地を縱橫に行めり

己の有からざる住處を奪

ふ者なり

是ハ懼るべく又驚くべし

其是非威光ハ已より出づ

る馬ハ豹よりも速く夜求食する豹狼よ

も疾し其騎兵ハ跑まざる即ちろの騎兵と遠き處より來る

其飛ことハ物を食之んと急ぐ煙のおとし

是之全く強暴のため來り其面を前にむけて頬に進む

るの俘虜を寄集むることハ砂のごとし

是ハ王

等を侮り君等を笑ひ諸の城々を笑ひ士を擧げてこれを取ん

斯て風のごとくに行めり進みわたりて

罪を獲ん

是ハ己の力を神とす

エホバわが神わが聖者よ汝ハ永遠より在すに非ずや

我らハ死せ

エホ

バよ汝ハ是を審判のために設けたまへり

聖よ汝ハ是を懲戒のために置たまへり

汝ハ自清くして肯て

惡を觀たまさざる者肯て不義を視たまさざる者なるに何ゆゑ邪曲の者を觀ずて置たまふや

惡き者の已

にまじりて義き者を呑噬ふに何ゆゑ汝馳し居たまふや

汝ハ人をして海の魚のごとくからしめ君あらぬ

昆蟲のごとくからしめたまふ

汝劍をもて之を盡く

釣わね網をもて之を捕ふる

あり是も因て彼歡ひ樂しむ

是故に彼らの網に犠牲を獻げろ

の引網に香を焚く

其ハ之のため

にの別

肥さざりりの食糧にたりたをさかきり、然るに彼の網を傾けつゝさばたさす國々の人を惜みかかく殺すて  
 ひとをさするふらんか  
 一 我わが觀望所を立ちて成體を身を置えりて我候ひ望みて其われに何ぞ宣ふかを見わが訴言  
 二 エホバわれに答へて言たまふ、此獸示を書きよして之を板の上  
 三 明白に鑄つけ、牽りなすも之を讀べからん、此獸示はかほ定まれる時を俟てその終を急ぐかり候  
 四 ならず若し遅くあらば待てし必ず臨むべし、滯り候へしに、彼の心が高ぶるの中にわがりて直からず  
 五 然るに義き者への信仰およりて活べし、かの酒に耽る者へ邪曲ある者なり驕傲者をして安んせ、彼への  
 六 情慾を陰府のごとくに瀧す、また死に死のごとく又足ごとのを知らず、萬國を集めて已に歸せ去め、萬民を聚  
 七 めて已に就じむ、其等の民みな謔語をもて彼を誣し、爾をもて彼を誣せざらんや、即ち言ふに已に屬  
 八 せざる物を積累する者へ、爾なるかな斯て何の時にまでかよばんや、陸かの質物の重荷を身お負ふ者よ、汝  
 九 を嗤ひ者よ、はかばか興らざらんや、汝を惱ます者醒出ざらんや、汝に之に披らるべし、汝衆多の國民を拵  
 十 めしに因て、その諸の民の遺れる者なんちを披らめん、是人の血を流し、お因るまた強暴を地上に行ひて  
 十一 邑どのの内に住る一切の者よ、及ぼせしお因るあり、災禍の手を免れんがためお高き處に巢へんご  
 十二 して己の家に不義の利を取る者へ、禍あるか、汝の事を圖りて己の家に恥辱を來させ、衆多の民を滅して  
 十三 自ら罪を取らん、石垣の石叩き建物の梁これに應へん、血をもて邑を建て、惡をもて城を築く者へ、禍あるか  
 十四 諸の民の火のために勞し、諸の國へ空虚の事のためお疲る、是は萬軍のエホバより出る者からずや  
 十五 エホバの榮光を認むるの知識、地上に充て宛然、海を水の拍み、如くさらん、人に酒を飲せ、己の忿怒を酌和

ハバ 17  
 1 肥さざりりの食糧にたりたをさかきり、  
 2 然るに彼の網を傾けつゝさばたさす國々の人を惜みかかく殺すて  
 3 ひとをさするふらんか  
 4 一 我わが觀望所を立ちて成體を身を置えりて我候ひ望みて其われに何ぞ宣ふかを見わが訴言  
 5 二 エホバわれに答へて言たまふ、此獸示を書きよして之を板の上  
 6 三 明白に鑄つけ、牽りなすも之を讀べからん、此獸示はかほ定まれる時を俟てその終を急ぐかり候  
 7 四 ならず若し遅くあらば待てし必ず臨むべし、滯り候へしに、彼の心が高ぶるの中にわがりて直からず  
 8 五 然るに義き者への信仰およりて活べし、かの酒に耽る者へ邪曲ある者なり驕傲者をして安んせ、彼への  
 9 六 情慾を陰府のごとくに瀧す、また死に死のごとく又足ごとのを知らず、萬國を集めて已に歸せ去め、萬民を聚  
 10 七 めて已に就じむ、其等の民みな謔語をもて彼を誣し、爾をもて彼を誣せざらんや、即ち言ふに已に屬  
 11 八 せざる物を積累する者へ、爾なるかな斯て何の時にまでかよばんや、陸かの質物の重荷を身お負ふ者よ、汝  
 12 九 を嗤ひ者よ、はかばか興らざらんや、汝を惱ます者醒出ざらんや、汝に之に披らるべし、汝衆多の國民を拵  
 13 十 めしに因て、その諸の民の遺れる者なんちを披らめん、是人の血を流し、お因るまた強暴を地上に行ひて  
 14 十一 邑どのの内に住る一切の者よ、及ぼせしお因るあり、災禍の手を免れんがためお高き處に巢へんご  
 15 十二 して己の家に不義の利を取る者へ、禍あるか、汝の事を圖りて己の家に恥辱を來させ、衆多の民を滅して  
 16 十三 自ら罪を取らん、石垣の石叩き建物の梁これに應へん、血をもて邑を建て、惡をもて城を築く者へ、禍あるか  
 17 十四 諸の民の火のために勞し、諸の國へ空虚の事のためお疲る、是は萬軍のエホバより出る者からずや  
 18 十五 エホバの榮光を認むるの知識、地上に充て宛然、海を水の拍み、如くさらん、人に酒を飲せ、己の忿怒を酌和

ハバ 18  
 1 聖殿に在らずか、かし、全地への御前に黙すべし  
 2 一 エホバよ、神アモナに合せて歌へる預言者ババカの祈禱、エホバよ、我かちの宣ふ所を開て覆る  
 3 二 この諸の年の中間に汝の運動を活動かせたまへ、此諸の年の間にこれを顯現したまへ、怒る時  
 4 にも憐憫を忘れたまはざれ、神アモナより來り、聖者バトラン山より臨みたまふ、セラ、其榮光諸天を蔽ひ、  
 5 其讚美世界に徧ぬし、その朝暈の日のごとく、光線の手より出づ、彼處へのの権能の隠るゝ所なり、  
 6 病の前に先だち行き、熱病の足下より出づ、彼を立て、地を覆はせ、觀させし、萬國を戰慄せめたまふ、永  
 7 久の山崩れ、常磐の岡に陥り、彼の行ひたまふ道へ永久なり、我觀るにクソヤンの天幕を難に罹り、  
 8 ミデアの地の帳幕を震ふ、エホバよ、汝の馬を驅り、汝の拯救の車に乗たまふ、是河にむかひて怒りたま  
 9 ふなるか、河にむかひて汝の忿怒を發したまふ、海にむかひて汝の憤恨を洩したまふ、なるか、汝  
 10 の引へ全く囊を出で、杖の言をもて言かためらる、セラ、汝の地を裂て河とさしたまふ、山々汝を見て震ひ

ハバ 19  
 1 聖殿に在らずか、かし、全地への御前に黙すべし  
 2 一 エホバよ、神アモナに合せて歌へる預言者ババカの祈禱、エホバよ、我かちの宣ふ所を開て覆る  
 3 二 この諸の年の中間に汝の運動を活動かせたまへ、此諸の年の間にこれを顯現したまへ、怒る時  
 4 にも憐憫を忘れたまはざれ、神アモナより來り、聖者バトラン山より臨みたまふ、セラ、其榮光諸天を蔽ひ、  
 5 其讚美世界に徧ぬし、その朝暈の日のごとく、光線の手より出づ、彼處へのの権能の隠るゝ所なり、  
 6 病の前に先だち行き、熱病の足下より出づ、彼を立て、地を覆はせ、觀させし、萬國を戰慄せめたまふ、永  
 7 久の山崩れ、常磐の岡に陥り、彼の行ひたまふ道へ永久なり、我觀るにクソヤンの天幕を難に罹り、  
 8 ミデアの地の帳幕を震ふ、エホバよ、汝の馬を驅り、汝の拯救の車に乗たまふ、是河にむかひて怒りたま  
 9 ふなるか、河にむかひて汝の忿怒を發したまふ、海にむかひて汝の憤恨を洩したまふ、なるか、汝  
 10 の引へ全く囊を出で、杖の言をもて言かためらる、セラ、汝の地を裂て河とさしたまふ、山々汝を見て震ひ

ハバ 20  
 1 聖殿に在らずか、かし、全地への御前に黙すべし  
 2 一 エホバよ、神アモナに合せて歌へる預言者ババカの祈禱、エホバよ、我かちの宣ふ所を開て覆る  
 3 二 この諸の年の中間に汝の運動を活動かせたまへ、此諸の年の間にこれを顯現したまへ、怒る時  
 4 にも憐憫を忘れたまはざれ、神アモナより來り、聖者バトラン山より臨みたまふ、セラ、其榮光諸天を蔽ひ、  
 5 其讚美世界に徧ぬし、その朝暈の日のごとく、光線の手より出づ、彼處へのの権能の隠るゝ所なり、  
 6 病の前に先だち行き、熱病の足下より出づ、彼を立て、地を覆はせ、觀させし、萬國を戰慄せめたまふ、永  
 7 久の山崩れ、常磐の岡に陥り、彼の行ひたまふ道へ永久なり、我觀るにクソヤンの天幕を難に罹り、  
 8 ミデアの地の帳幕を震ふ、エホバよ、汝の馬を驅り、汝の拯救の車に乗たまふ、是河にむかひて怒りたま  
 9 ふなるか、河にむかひて汝の忿怒を發したまふ、海にむかひて汝の憤恨を洩したまふ、なるか、汝  
 10 の引へ全く囊を出で、杖の言をもて言かためらる、セラ、汝の地を裂て河とさしたまふ、山々汝を見て震ひ

...



をふき斷置をつくり堅き城を攻め高き櫓を攻るの日なり われ八々に患難を蒙らして盲者のごとくに  
 感ひあるかといめん彼らエホバにむかひて罪を犯したれ亦かりの血は流さむと塵のごとくなり彼ら  
 の肉は拾はれて糞土のごとくになるべし 彼らの銀も金もエホバの烈き怒の日にけりかきらを救ふこと  
 にあらず空地の火に燃ゆるべし 即ちエホバの民をこそとく滅したれん其事をこそとくに連る  
 べし

汝等羞恥を知ぬ民早く自ら内に省みよ 夫日ハ織紙のごとく過ぎざる然ハ認言れいまだ行は  
 れざる先エホバの烈き怒のいまだ汝等に臨まざる先エホバの忿怒の日のいまだ汝等小きたざらざるに  
 自ら省みよ すべてエホバの律法を行ふ地の遙なるものよ汝等エホバを求め公義を求め謙遜を求め  
 と然すれ汝等エホバの忿怒の日に或は圍さるゝことあらん 夫ガサハ棄られアシクロン荒てアモ  
 ンハ自置に逐へらばレニクロン拔さるべし 海濱に住る者あよびアレラの國民ハ禱なるかかべ  
 リシテ人の國ガナノエホバの言なちらを攻む我なちを滅して住者なきに至らしむべし 海邊ハ必  
 らず牧場とあり牧者の洞あよび羊の年うごに在らん 此地ハユカの家ハ殘餘れる者に歸せん彼ら其處にて  
 草飼ひ暮す至ればアシクロンの家に臥らんハ彼らの神エホバかれらを離みよの俘囚を歸したまふべけれ  
 となり 我すでにモアの脚弄とアモンの子孫の罵言を聞き彼らハわが民を嘲けり自ら誇りて之が境  
 界を侵せしあり 是故に置軍のエホバイスラエルの神言たまふ我ハ活く必ずアモアハソムのごとくに  
 ありアモンは子孫ハモラのごとくにあらん是ハ共に華麻の蔓蘆とあり 曠野の地となりて長久に  
 荒れつべし 我民の遺れる者かれらを掠めわが國民の餘されたる者かれらを獲ん 此事の彼らに歸むハ

九章六節 九章九節  
 十章一節 十章三節  
 十一節 十一節  
 十二節 十二節  
 十三節 十三節  
 十四節 十四節  
 十五節 十五節  
 十六節 十六節  
 十七節 十七節  
 十八節 十八節  
 十九節 十九節  
 二十節 二十節  
 二十一節 二十一節  
 二十二節 二十二節  
 二十三節 二十三節  
 二十四節 二十四節  
 二十五節 二十五節  
 二十六節 二十六節  
 二十七節 二十七節  
 二十八節 二十八節  
 二十九節 二十九節  
 三十節 三十節  
 三十一節 三十一節  
 三十二節 三十二節  
 三十三節 三十三節  
 三十四節 三十四節  
 三十五節 三十五節  
 三十六節 三十六節  
 三十七節 三十七節  
 三十八節 三十八節  
 三十九節 三十九節  
 四十節 四十節  
 四十一節 四十一節  
 四十二節 四十二節  
 四十三節 四十三節  
 四十四節 四十四節  
 四十五節 四十五節  
 四十六節 四十六節  
 四十七節 四十七節  
 四十八節 四十八節  
 四十九節 四十九節  
 五十節 五十節  
 五十一節 五十一節  
 五十二節 五十二節  
 五十三節 五十三節  
 五十四節 五十四節  
 五十五節 五十五節  
 五十六節 五十六節  
 五十七節 五十七節  
 五十八節 五十八節  
 五十九節 五十九節  
 六十節 六十節  
 六十一節 六十一節  
 六十二節 六十二節  
 六十三節 六十三節  
 六十四節 六十四節  
 六十五節 六十五節  
 六十六節 六十六節  
 六十七節 六十七節  
 六十八節 六十八節  
 六十九節 六十九節  
 七十節 七十節  
 七十一節 七十一節  
 七十二節 七十二節  
 七十三節 七十三節  
 七十四節 七十四節  
 七十五節 七十五節  
 七十六節 七十六節  
 七十七節 七十七節  
 七十八節 七十八節  
 七十九節 七十九節  
 八十節 八十節  
 八十一節 八十一節  
 八十二節 八十二節  
 八十三節 八十三節  
 八十四節 八十四節  
 八十五節 八十五節  
 八十六節 八十六節  
 八十七節 八十七節  
 八十八節 八十八節  
 八十九節 八十九節  
 九十節 九十節  
 九十一節 九十一節  
 九十二節 九十二節  
 九十三節 九十三節  
 九十四節 九十四節  
 九十五節 九十五節  
 九十六節 九十六節  
 九十七節 九十七節  
 九十八節 九十八節  
 九十九節 九十九節  
 一百節 一百節

の傲慢による即ち彼ら萬軍のエホバの民を嘲りて自から誇りたればなり エホバの彼等に對ひてハ  
 畏るしとせしめし地の諸の神を饒し滅したまふあり 諸の國の民おのの處より出てエホバを拜まん  
 エラオヒアよ汝等もまたわが劍にかうりて殺さる エホバ北に手を伸てアスリヤを滅したまはん  
 亦ニ子べを荒して荒野のごとき旱地となしたまへん 而して畜の類もろくの類の生物のうち伏し羈  
 縛あよび刺猥其柱の頂に住み囀る者の豊饒の内にきて之を荒れたる物園の上に積り櫓木の板の細工露顯に  
 あるべし 吾國ハ驕り傲公りて安泰に立をり 惟我わが我の外に 誰もなしと心のの中に言つゝありし者あ  
 るが却も荒てて之を畜獸の臥す處とある者か 亦此を過る者ハみ亦斷きて手をふるぞん

此暴虐を行なへん 憐れりかつ汚れたる邑ハ禱なるかな 是ハ聲を聽いれず 教誨を承ず エホバに依  
 頼すかのれの神に近よらず うちの中おる者倍倍ハ吼る獅子のごとく うちの中おる者ハ明且まで何をも遺さ  
 ざる夜求食する狼のごとし うちの中おる者ハ預言者ハ俄りかつ許せる人なり うちの中おる者ハ祭司ハ聖物を汚し 律法を破ること  
 をなせり うちの中にいやす エホバハ義くして不義を行なひたまはす 朝々朝々己の公義を顯して 蝕る  
 となし 然るに不義ある者ハ恥を知らず 我國民の民を滅ぼしたれ 彼ら凡て荒たり 我之れハ街を荒涼  
 れまめたれば往來する者なし うちの中おる者ハ滅びて人なく 住む者なきに至れり 我れ前も言ひ汝た 我を畏  
 れまた 教誨を要べし 然らばうちの中おる者ハ我凡て之につきて定めたる所の如くに滅ぼさざるべし 然る  
 に彼等ハ風に起て己の一切の行狀を壊さり エホバ曰たまふ 是はゆゑに汝らわが起て 獲物をする日いたる  
 まで我を俟て我もろくの民を集へ 諸の國を聚めて わが憤恨とわが烈き忿怒を盡くすの上にうらん  
 思ひ定む空地の火に燃ゆるべし ちの暗れれ國々の民に情き唇をかへ 彼らをして凡て

九章六節 九章九節  
 十章一節 十章三節  
 十一節 十一節  
 十二節 十二節  
 十三節 十三節  
 十四節 十四節  
 十五節 十五節  
 十六節 十六節  
 十七節 十七節  
 十八節 十八節  
 十九節 十九節  
 二十節 二十節  
 二十一節 二十一節  
 二十二節 二十二節  
 二十三節 二十三節  
 二十四節 二十四節  
 二十五節 二十五節  
 二十六節 二十六節  
 二十七節 二十七節  
 二十八節 二十八節  
 二十九節 二十九節  
 三十節 三十節  
 三十一節 三十一節  
 三十二節 三十二節  
 三十三節 三十三節  
 三十四節 三十四節  
 三十五節 三十五節  
 三十六節 三十六節  
 三十七節 三十七節  
 三十八節 三十八節  
 三十九節 三十九節  
 四十節 四十節  
 四十一節 四十一節  
 四十二節 四十二節  
 四十三節 四十三節  
 四十四節 四十四節  
 四十五節 四十五節  
 四十六節 四十六節  
 四十七節 四十七節  
 四十八節 四十八節  
 四十九節 四十九節  
 五十節 五十節  
 五十一節 五十一節  
 五十二節 五十二節  
 五十三節 五十三節  
 五十四節 五十四節  
 五十五節 五十五節  
 五十六節 五十六節  
 五十七節 五十七節  
 五十八節 五十八節  
 五十九節 五十九節  
 六十節 六十節  
 六十一節 六十一節  
 六十二節 六十二節  
 六十三節 六十三節  
 六十四節 六十四節  
 六十五節 六十五節  
 六十六節 六十六節  
 六十七節 六十七節  
 六十八節 六十八節  
 六十九節 六十九節  
 七十節 七十節  
 七十一節 七十一節  
 七十二節 七十二節  
 七十三節 七十三節  
 七十四節 七十四節  
 七十五節 七十五節  
 七十六節 七十六節  
 七十七節 七十七節  
 七十八節 七十八節  
 七十九節 七十九節  
 八十節 八十節  
 八十一節 八十一節  
 八十二節 八十二節  
 八十三節 八十三節  
 八十四節 八十四節  
 八十五節 八十五節  
 八十六節 八十六節  
 八十七節 八十七節  
 八十八節 八十八節  
 八十九節 八十九節  
 九十節 九十節  
 九十一節 九十一節  
 九十二節 九十二節  
 九十三節 九十三節  
 九十四節 九十四節  
 九十五節 九十五節  
 九十六節 九十六節  
 九十七節 九十七節  
 九十八節 九十八節  
 九十九節 九十九節  
 一百節 一百節